

講義科目名称： 保育実習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Nurturing Practice II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
林 富公子			
添付ファイル			

科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> これまでの既習科目と保育実習Ⅰを始めとする実習経験を踏まえて、総合的に保育をとらえる意識をもって実習を行う 子どもとの関わりにおいても、より深い子ども理解が求められるためある程度同一のクラスで実習を行う 養護と教育が一体的に行われるという保育の基本理念や社会的役割を具体的実践から学ぶ 実習生自身が自ら保育現場での実習を通して保育士の役割（保護者支援や子育て支援、地域連携などを含む）を理解する 指導案を作成し、保育実践をする中でPDCAサイクルの重要性を理解する
授業の内容	<p>1 保育所の役割や機能の具体的展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 養護と教育が一体となって行われる保育の具体的理解 保育所の社会的役割と責任を知ること <p>2 参加実習における保育の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿についての観察および理解 環境構成に対する理解および配慮 保育士の援助や配慮 <p>3 保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 入所している子どもの保護者及び地域の保護者に対する子育て支援 関係機関や地域社会との連携・協働 <p>4 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 作成した指導計画に基づく実践と評価 <p>5 保育士の業務と職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な保育の展開と保育士の業務 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 <p>6 自己課題の明確化</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める 子ども理解を深めるためにも子どもとの関わりについて視点を明確にする これまでの既習科目と保育実習ⅠAを始めとする実習経験を踏まえて、保育士の役割について総合的に理解する 指導案を作成する中で、PDCAサイクルについて理解を深める。 実習における自己課題を明確化する。
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> 保育所における実習に10日間(80時間)以上参加する。
成績評価の方法	<p>実習園による評価、および、実習ノートの内容、面談内容などを総合的に評価する。</p>
教科書・テキスト	<p>大阪青山大学 子ども教育学科 教育・保育実習ハンドブック 保育所・幼稚園・児童福祉施設実習用 大阪青山大学 子ども教育学科 保育実習ノート</p>
参考書	<p>厚生労働省 2018 保育所保育指針解説 フレーバル館 内閣府 文部科学省 厚生労働省 2018 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーバル館</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<ul style="list-style-type: none"> 保育実習に参加するにあたって、子どもの発達や興味・関心などについて調べておくこと。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に学ぶ姿勢をもって実習に参加すること 参加条件を満たさない場合は、参加できない 実習ハンドブックをよく読むこと
オフィスアワー	<p>火～金の昼休み</p>
担当教員への連絡方法	<p>f-hayashi*osaka-aoyama.ac.jp *を@に変えて下さい。</p>
その他	<p>このシラバスは下記の文献を参考に作成した。 一般社団法人全国保育士養成協議会編集 2018 保育十種指導のミニマムスタンダードVer2 「協働」する保育士養成 中央法規</p>